

が、子育て支援策や医療福祉を含めての対策が必要である。

町外 専門病院等への 通院者対策

原 紀夫議員

本町の高齢化率も年々増加しており、それに伴い専門病院等への通院者が自家用車以外の通院に苦慮している実態にある。JR利用による通院者が跨線橋を渡つての乗車に大変な苦痛を訴えており、町が本腰を入れて取り組む必要があると考える。現有車両の有効活用や広域による通院車両の運行など幅広く知恵を結集し実現に向けて鋭意努力し早急に不安解消策を講ずべきと考えるがいかがか。

高薄町長

基本的にはJRに1番ホームを設けられないか強く要請していきたい。それが叶わぬ場合は、特別

に線路を渡らせてもらえないか要請をしていかなければならない。それも無理であれば、御影あるいは新得の1番ホームのあるところまで送迎が可能か検討していきたい。



JRには、跨線橋を渡らない1番ホームの設置を要望している

総合計画 策定についての 考え方は

橋本晃明議員

中長期的な清水町のまちづくりの基本方針であり非常に重要であると思つたが、計画にない道路を急に予算化するなど、計画や審議会を軽視していかないか。

次期計画に盛るべき町の課題は何だと町長は考へているのか。当たり障りない計画なら必要ないのでは。

将来の人口想定では年齢構成の変化がより重要だと思つたが、計画末の平成32年の高齢者比率について認識を伺いたい。

高薄町長

総合計画はまちづくりを総合的、計画的にするための基本的な指針となるもので、町政運営上、最も上位の計画である。基本的な考え方は総合計画に基づいて計画を組んで、そのなかから優先順位を決めて、財政の許す範囲で位置づけをしていくが、社会的な変化、状況変化があった場合にはやっていかなければならないものも出てくる。地域住民が生活用道路として緊急に必要で優先したというのが現状で、総合計画に入れていなかったことは十分に反省し次期にいかしていきたい。

将来の重要課題として、日本社会は少子高齢化で年齢構成を人口ピラミッドにすると逆三角形になってきている。社会環境、経済環境を充実しなければ元のような形には進まないため、それを踏まえた施策も考へていかなければならない。

高齢化率は、平成20年3月を基準として10年間で12・1%増となるので、平成30年における高齢化比率は約41%から42%と推計される。

町民の起業支援に 力を入れよ

橋本晃明議員

町の経済の活性化のためには企業誘致とともに、内なる活性化が不可欠であり、町民の起業を支援することが重要であると思つたが、町長の考えを伺いたい。

庁内に担当部署はあるか。

新規事業に対応する仕組みはあるか。町として起業を支援するにあたっては町の方針と一致しているかどうかの判断が必要では。

福祉など公共の担い手としてNPO育成にも取り組むべきでは。

高薄町長

起業支援の部署としては、企業誘致に関するものは産業振興課商工観光係となっているが、全体的な取り組みをしなければならぬということから、5団体による経済活性化戦略会議を設置し、総務課政略室を事務局としている。新規事業に対する仕組みは、役場の窓口がひとつになり情報を入手して関係課に流していくことや複数の課で情報の共有を図ることが必要で、そういう仕組みをつくりあげていきたい。

町としての起業支援は、町のおかれている状況を把握し、必要業種に対し支援をしなければならない。

現在、公共サービスをやっているのはシルバー人材センターなどがあるが、違う分野からもサービス部門が出てくるよう働きかけをしていく。

快適な まちづくりに のために

奥秋康子議員

十勝の玄関口である町内の国道、道道、町道に地域性を表現するための街路樹を統一して植樹をしては。

特に本通り等の街路樹の現状を把握し、危険木の撤去と植え替えをして安全性を図るべきでは。

生活環境での樹木の害虫駆除のための殺虫剤散布をする場合には事前に近隣住民に十分な情報提供をすべきでは。

本通りの備え付けの大型プランター花壇はノーマライゼーションの考えのもとで夏場の必要な時